

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00907

研究課題名（和文）農業と食の持続可能なビジネスモデルとイノベーションの実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study of Business Innovations in the Sustainable Agri-Food Economy

研究代表者

小川 孔輔 (Ogawa, Kosuke)

法政大学・イノベーション・マネジメント研究科・教授

研究者番号：50105855

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,770,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトでは、日本の農業とフードビジネスに必要とされる3つの重要な課題（国際競争力の向上、新規参入者の増加、技術革新の農業と食品産業への適応）に貢献できるよう、農業分野と食品産業のイノベーションを類型化する。また、持続可能なビジネスモデルの萌芽を理論的に説明できる枠組みを構築する。そのために、消費者調査と事例研究によって、7つのサブプロジェクトを実行した。農と食の革新についての基礎理論研究、ビジネス環境の変化を説明する枠組みの構築、食トレンドについての2つの海外調査、国内の消費者調査と事例研究、野菜栽培の応用イノベーション研究、植物工場研究、食イノベーションの発達史。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学際的な研究を推進するにあたり、4つの目標を設定した。農と食の分野でのイノベーションの源泉を明らかにすること。持続可能なアグリフードビジネスが競争優位性をもたらすことを実証すること。農業が低生産性の罠から逃れるメカニズムを解明すること。海外の農と食の実証研究の成果を日本に紹介すること。理論研究のレビューとともに、農産加工分野の革新的な取り組みについて、国内外の企業を調査した。その成果は、学術書や学会誌に論文として発表されている。また、商業分野の発見や提言に関しては、商業誌での連載やビジネスフォーラムにて公表されている。なお、小川と山根は、プロジェクトに関する書籍を刊行している。

研究成果の概要（英文）：Our research project intends to contribute three tasks to the public, i.e., (1) to develop the Japan's competitive advantage in agri-food business, (2) to increase the number of new entrants into the sector, and (3) to adapt the state of the art technology to that agri-food industry. We classify the innovations in the industry into a few categories. Also, we build the framework for explaining the basic factors to make our society sustainable. We developed the seven sub-projects: (1) to study the basic research for innovations, (2) to design the framework for identifying the factors in the changing business environment, (3) to implement two sets of food research overseas, (4) to conduct the consumer survey and case study in Japan, (5) to do the applied research for production and distribution of vegetables, (6) to observe the general trends in vertical farming and to analysis major factors for success, and (7) to describe a company history of the development of food business.

研究分野：マーケティング、流通サービス業、フードビジネス

キーワード：持続可能性 アグリ・フードビジネス イノベーション 食品産業 農業生産技術 農と食のイノベーション わさび サラダ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトを始めるに当たって、農業と食品産業を取り巻く環境変化を整理してみた。5つの主たる要因から、アグリフードビジネスのグローバルな変化が説明できると考えた。

地球温暖化と自然環境の破壊、新しい技術の創発による農業の生産性向上、安心・安全な農産品の流通に関する創意工夫、生産から販売に至るまでのサプライチェーン全体の組み替え、マーケティング革新とイノベーションの担い手の育成、そして、ドラスティックなビジネスの変化を引き起こす企業群と起業家の登場である。

本研究プロジェクトでは、農と食を取り巻く環境変化に着目し、産業の劇的な変化を説明する理論的な枠組みを構築する。それと同時に、ケース研究(フィールドワークとインタビュー)を通じてイノベーションの実像を実証する。その上で、持続可能なビジネスモデルの萌芽を説明できる枠組みを構築する。

2. 研究の目的

プロジェクトの目的は、農業と食品産業におけるイノベーションを類型化しつつ、新しい持続可能なビジネスモデルを理論的に説明できる枠組みを構築することである。

研究プロジェクトでは、日本の農業とフードビジネスに必要とされる3つの重要な課題を抽出した。すなわち、

アグリフードビジネスの国際競争力の向上、
農業分野への新規参入者と担い手の増加(イノベーションの担い手と実践者の発見)、
技術革新の農業と食品産業への適応である。農業分野と食品産業のイノベーションの課題解決に貢献できると考え、イノベーションの類型化を試みた。

学際的な研究を推進するにあたり、以下の4つの目標を設定した。

農と食の分野でのイノベーションの源泉を明らかにすること、
持続可能なアグリフードビジネスが競争優位性をもたらす要因を実証すること、
農業が高い生産性をもたらすメカニズムを解明すること、
農と食の実証研究の成果を紹介すること。

3. 研究の方法

基礎的な理論研究のレビューとともに、農産加工分野の革新的な取り組みについて、国内外の企業を調査することにした。また、研究組織として実務家を招いたセミナー(NOAFセミナー:農水省と共催)と、経営大学院で経営者を招聘しての連続セミナー(ビジネスリーダー育成セミナー)を実施することで、農と食分野の革新的な取り組みを事例として整理した。

本プロジェクトでは、農と食のイノベーションに関連する事業領域を、つぎのように分類した。各カテゴリーで取り上げた企業や公的組織の取り組みは、以下のようにリスト化してある。

- (A) 農業分野(金沢大地、ローソンファーム千葉、ローソンファーム兵庫、SKフロンティア)
- (B) 植物工場(SARA、SKフロンティア、インファーム・ジャパン)
- (C) 卸会社/取引プラットフォーム事業(プラネット・テーブル、坂ノ途中)
- (D) 食品小売業(エブライ、福島屋、ヤオコー、ナチュラルローソン、ロック・フィールド、物語コーポレーション)
- (E) 食品加工業(クリマ、相模屋食料、サントリー)
- (F) 地域の取り組み(海の京都、魚津市、吉見光の子ども園)

4. 研究成果

(1) 基礎理論研究

海外の既存研究については、小川(研究主査)と青木(研究協力者)が、世界の食品産業で主役に転換しつつある植物食の背後にある健康・環境要因を文献レビューした(約50点の論文データベースを作成)。同時に、植物工場の事業性に関する文献を整理しつつ、農業現場(農業)をフィールドワークした。後者の「植物工場研究」では、世界の動向を調査した上で、国内の店頭実査によって、実践的な課題が浮き彫りにされた(詳細については後述)。

植物の育種を研究している山根は、国内外の学会誌に「わさび」に関する研究論文を発表した。わさびが日本の固有品種であることを突き止めるとともに、地球温暖化と栽培環境の破壊によって、わさびが種として絶滅の危機にあることをフィールド調査を実施してきた。一般公衆へ「わさびの危機」を啓蒙するために、若者を中心に何度かの消費者調査を実施した。全体の成果を、山根京子(2019)『わさびの日本史』文一総合出版として刊行されている。

(2) ビジネス環境変化の枠組み

小川(2021)は、農と食を取り巻く事業環境の変化を、「20世紀(左側)と21世紀(右側)」を対置させながら、基本的なトレンドの方向性を整理した。企業やビジネスの動向や、フィールド調査を実施するための羅針盤として、この枠組み(表1)を位置づけることにした。

デザインは、人工的なもの(直線)からより自然なもの(曲線)へ。地理的な事業展開の方向性は、グローバル一辺倒からローカルへ。そのために、人とモノの移動距離は、従来型の長くからできるだけ短くへ。関連して食のテイストは、洋(エナジー)から和(エコロジー)へ変わっている。

また、生活や仕事の場所は、都市一辺倒から2拠点居住に代表されるように「田舎（地方）もミックス」へ。それに応じて、人間の生き方は、「効率と標準化」の重視から「効果と多様性」も維持できる方向に変わりつつある。ビジネスを实践する上での価値観は、できるだけ安くのディスカウント志向から、多少高くても価値のあるものを受け入れる土壌に変わってきている。

そして、農業と食品分野での新しい事業構築の視野は、短期志向で単品大量生産から、長期的な観点をとり入れながら多品種少量生産を受け入れる社会へ移っている。表1（右側）のような価値観を良しとする世の中に変わってきている。

表1 基本トレンド：20世紀から21世紀へ

デザイン	人工	自然
デザイン	直線	曲線
地理的考え方	グローバル	ローカル
人とモノの移動距離	長く	短く
テイスト	洋（エナジー）	和（エコロジー）
住処	都市一辺倒	田舎もミックス
人間の生き方	効率・標準化	効果・多様性
価値観	ディスカウント	バリュー
期間	短期	長期
生産、消費、販売	大量	少量

（3）食のトレンドに関する2つの海外調査（オランダと米国カリフォルニア州）

海外の理論実証研究については、小川（研究主査）と青木（研究協力者）がオランダを2019年春に訪問して、アムステルダム自由大学のエイキング博士（Dr. Harry Aiking）にインタビューを試みた。その成果は、調査資料として「持続可能な食料生産の地球環境への影響：動物性タンパク質への転換における諸課題」『イノベーション・マネジメント研究』（法政大学）で刊行された。

内容は、植物食（Plant-based Food）が環境汚染や気球温暖化を防止する役割について論じたものである。エイキング博士の主張を要約して紹介したのが表2である。動物性タンパク質の摂取を減らし、植物性タンパク質中心の食生活を変えていくことと、フードロス削減やカロリーの過剰摂取をやめることが環境負荷低減につながると博士は推奨している。

表2 持続可能な社会をつくるために

（エイキング博士の5つの提案：2019年のインタビューから）

1	タンパク質の過剰消費の削減（現状の30%）
2	カロリーの過剰消費の削減（現在の消費量は、必要量の倍）
3	家庭での食品ロスの削減
4	動物性から植物性タンパク質への転換
+ 5	長距離輸送の削減（運ばない産業へ）

小川（2019）は、単独でカリフォルニアの食文化の変遷に関する実態調査を敢行した。その成果は、月刊誌『食品商業』（2020）の特集記事「米国西海岸の食トレンド」として発表された。コロナ禍でフードビジネスの変化を説明できる枠組みが提示した（表3）。

米国西海岸のフィールド調査（2019年秋）では、米国人の健康志向と有機野菜の供給システムの変化が、食材供給側（サラダ専門店やファストフード店）の経営形態の変化を促している。その成果は、わが国のコロナ禍・アフターコロナでの食品産業の変化を説明する枠組みに反映させることができると考えた。

表3は、米国西海岸（サンフランシスコ、ロスアンゼルス）で観察した食のトレンドを、4つの軸からまとめたものである。米国人（とりわけ知識層）は、20年前と食に対する重視点がドラスティックに変わった。要約すると、目で食べる（Visual）、旬を食べる（Seasonal）、健康な食材を選ぶ（Healthy）、地産地消に拘る（Last 100miles）である。

表3 アメリカ西海岸の4つの食トレンド

1	Visual	「エネルギーとしての食」から「美しさを重視する食」へ
2	Seasonal	「いつでも食べられる」から「今、美味しいもの」へ
3	Healthy	「Junk food」から「Vegetables」へ
4	Last 100 miles	「Nation-wide Global 調達」から「地産地消」へ

(4) 持続可能な食ビジネスの消費者調査と事例研究

2019 年から隔月のペースで、持続可能な農と食のビジネスに取り組んでいる革新的な企業群を取り上げる「NOAF セミナー」を実施した。セミナーの内容と関連した企業(事業家)へのヒアリングをもとに、その成果を専門誌『食品商業』に連載した(全 30 回、2019 年~2021 年)。

研究チームが全員で取り組んだテーマとしては、「ビーガン/ベジタリアンの消費行動の特徴について」である。議論を深めた内容の一部は、西尾が共著論文(2019)を発表している。

西尾(2020)は、消費者のエコロジー行動の規定要因モデルとサステナブル価値観尺度を用いて、消費者の価値構造や行動が時間と共にどのように変化しているかを統計的に解析した。

上田(2019)は、美味しさを生み出す情報の実証研究、地域創生プロジェクトを支援した事例を報告している。同じく続いて、上田(2020)は、美味しさを生み出す情報の実証研究、農業を中心に据えた地域活性化の考え方(持続可能な食の地域創生)を報告した。

(5) 野菜栽培の応用イノベーション研究(富山わさびプロジェクトと静岡ケールプロジェクト)

山根(2019)は、わさび研究の集大成として、学会誌になどで発表した論文をまとめた著作『わさびの日本史』を刊行した。山根の助言にしたがい、小川研究室の大学院生(金子美愛と松井雅恵)が、小川の指導の下で、地域活性化に農産物(わさび)を活用した事例(新潟県糸魚川市の SK フロンティア)を修士論文で取り上げた。

SK フロンティアは、新潟県を拠点とする土木建設業者である。創業者の渋谷一正社長は、雪国の融雪装置にヒントを得て、日本ではじめて大規模な温室施設での本わさびの周年栽培に成功した。現在でも、小川研究室と共同で、「わさびの温室栽培による大規模産地形成(富山県)」の実証事業に取り組んでいる。

静岡の石井育種場が小川研究室とのコラボレーションで、独自育種した新品種の野菜(キャベツとケール)で、農産加工品(静岡県)のブランディングを実地で検証している。調査研究の担い手は、元大学院生の石井智子氏(法政大学大学院坂本研究室)である。

(6) 植物工場プロジェクト研究

小川(研究主査)と平石郁生氏(法政大学経営大学院の元客員教授)は、植物工場の技術開発と商業化の歴史を 3 つの発展段階に区分した(表 4)。すなわち、「植物工場 1.0」(採算性度外視の技術開発段階)、「植物工場 2.0」(LED の低価格化と温室内制御が可能になり、一部黒字化する段階)、「植物工場 3.0」(ビッグ 4 と呼ばれる IT ベンチャーが大規模投資をする段階)。

表 4 植物工場の発展段階

1	植物工場 1.0 (1980 年~1989 年)	研究開発段階で採算性は度外視。日本の技術が世界をリードしていた。
2	植物工場 2.0 (2000 年~2014 年)	LED のコスト低下、温室栽培の生産性が高まる。 ただし、参入したスタートアップの 8 割は、赤字体質から脱却できず。
3	植物工場 3.0 (2015 年~現在)	インファーム(2013 にベルリンで創業、現在はオランダ本社)
		* 現在、大規模投資の対象となる 4 社が中心となる BIG 4 (Infarm、Plenty、Bowery、AEROFARMS)

植物工場は、英語では「垂直農法」(Vertical Farming)と呼ばれる。温暖化や気候変動のため、野菜を露地栽培して安定供給することが困難になっている。当初は、地方の田舎立地(Rural Location)で、自然光の温室栽培に替わる栽培方法として注目を浴びていた。

「植物工場 3.0」の段階での環境変化は、多段式で軒高の高い稠密な栽培方法が、栽培効率と物流の問題(物流費の高騰)を解決するようになったからである。ドイツ発祥の都市型垂直農法(Urban Indoor Farming)が問題解決の方向性を示した。現在、旧来型のルーラル立地と都市型が混在している。小川(2021)では、両方の利点と特徴を比較研究している。

(7) 食イノベーションの発展史

小川(2022)は、『青いりんごの物語：ロック・フィールドのサラダ革命』を単行本として発表した。1972年に神戸で産声を上げた「(株)ロック・フィールド」のフードビジネスの発展史をまとめたモノグラフである。

ロック・フィールド(創業者は岩田弘三社長)は、当初は、欧州からデリカテッセンのビジネスモデルを技術移転することで事業を始めた企業である。その後の半世紀をかけて、独自のメニュー(日本発のサラダメニュー)を開発して、国内の惣菜市場で圧倒的な優位を獲得した。いまやアジアを中心に注目を浴びる企業に成長している。その成功の要因を分析したのが本書である。

次の点で、ロック・フィールドは、惣菜業界でのイノベーターであったと言える。

持続可能な栽培方法を生産者と協力して実現した(枯葉剤の不使用、リサイクルコンテナの利用など)

環境を配慮した工場の設計と生産方法の確立(ビオトープ、風力発電、廃材のリサイクルなど)

新商品・新ブランド開発に積極的に投資してきた、

業界初の立地開発に努力(デパ地下、駅ナカ、路面店展開など)

<参考図書>

- ・小川孔輔(2022)『青いりんごの物語：ロック・フィールドのサラダ革命』PHP 研究所
- ・山根京子(2019)『わさびの日本史』文一総合出版

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計72件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 (20) 坂ノ途中(上) : 100年先も続く、農業を支えるプラットフォームになる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年5月号
2. 論文標題 (21) 坂ノ途中(下) : 海ノ向こうの途上国を支援する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 (22) 都市型垂直農業の進化系(上) : インファーム@独ベルリン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年12月号
2. 論文標題 (23) 都市型垂直農業の進化系(下) : インファーム・ジャパン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年1月号
2. 論文標題 (24) 物語コーポレーション(上): ユニークな業態開発戦略	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年2月号
2. 論文標題 (25) 物語コーポレーション(中): “清く正しいフランチャイザー” を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年3月号
2. 論文標題 (26) 物語コーポレーション(下): 企業理念のSmile&Sexyはどこから来たのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年4月号
2. 論文標題 (27) (続) インファーム: 都市型室内農場の国内事業に手応えあり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 88-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年5月号
2. 論文標題 (28) 日本初、機能性表示食品の豚肉(上) : (株)クリマの「氷室豚」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年6月号
2. 論文標題 (29) 日本初、機能性表示食品の豚肉(下) : ブランド豚の販路を開拓するクリマの「氷室豚」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年4月号
2. 論文標題 インタビュー プライシング戦略実践の好機 (特集「値付け」最前線 : プライステックの胎動)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 戦略経営者 (TKC編)	6. 最初と最後の頁 25-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年10月号
2. 論文標題 識者に学ぶ 効果的なプライシング : 事例にみる賢い価格づけの考え方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本政策金融公庫調査月報 (日本政策金融公庫総合研究所 編)	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年夏季号
2. 論文標題 コロナ後のホームセンター	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 DIY会報	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 JFMA創立20周年、花き業界の皆様へのメッセージ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グリーン情報	6. 最初と最後の頁 84-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 これからの花きの物流を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グリーン情報	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年新年号
2. 論文標題 協会設立40周年記念誌を読んで：コロナ禍でHC・DIY産業の重要性が見直される	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 DIY会報	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年3月号
2. 論文標題 withコロナ/ postコロナ時代のビジネスモデル(上): 日本マクドナルド、史上最高益のなぜ?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創造の架け橋(四国生産性本部・機関誌)	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年5月号
2. 論文標題 withコロナ/ postコロナ時代のビジネスモデル(下): POSTコロナを生き抜く企業群	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 創造の架け橋(四国生産性本部・機関誌)	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2021年夏季号
2. 論文標題 ホームセンターのDX戦略を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 DIY会報	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2022年新春号
2. 論文標題 未来予測の通信簿	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 DIY会報	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾チヅル	4. 巻 714
2. 論文標題 マーケティングに生きるナッジ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 40-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村孝、西尾チヅル	4. 巻 68集
2. 論文標題 エコプロダクト広告に対する新聞記事と記事広告の効果：コン テキスト・プライミング効果の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広告科学	6. 最初と最後の頁 23-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾チヅル	4. 巻 375号
2. 論文標題 脱炭素に向けたマーケティング戦略：エコロジカル・マーケティングのすすめ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JIR NEWS	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾チヅル	4. 巻 321号
2. 論文標題 環境コミュニケーションツールとしての新聞広告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日経広告研究所	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂、竹内俊子	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 沖縄おせち開発による地域創生およびそれに関する消費者調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学習院大学経済論集	6. 最初と最後の頁 275-313
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子良久、上田隆穂	4. 巻 41(3)
2. 論文標題 プライシングの系譜	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マーケティングジャーナル	6. 最初と最後の頁 6-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 25
2. 論文標題 持続可能性を高める、食による地域創生	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本フードサービス学会年報	6. 最初と最後の頁 28-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂、竹内俊子	4. 巻 34
2. 論文標題 地域特産物の『美味しさ』を増幅する『ふるさと情報』の考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学経済経営研究所 年報	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 57 (1-2合併号)
2. 論文標題 小規模コーヒーファームのイノベティブな成長戦略と地域創生～コスタリカの小規模コーヒーファーム (Micro Mill)、リベンス農園の調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学経済論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 56 (3・4合併号)
2. 論文標題 美味しさを生み出す情報に関する研究枠組みの検討～ガストロフィジクスの視点から～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学 経済論集	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内俊子、山中寛子、上田隆穂	4. 巻 56 (3・4合併号)
2. 論文標題 ニューラルネットワークによる最高利益を生み出す価格掛率のシミュレーション～全体でワンプライスの場合とグループ別のダイナミック・プライシングの場合の比較～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学 経済論集	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 66 (2)
2. 論文標題 一次産業を念頭に置いた地域活性化の考え方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本草地学会誌	6. 最初と最後の頁 118-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年6月号
2. 論文標題 農と食のイノベーション(11): 続・High Five Salad、販路にこだわらない勇気が成長をドライブする	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年7月号
2. 論文標題 (12) オイシックス・ラ・大地(上): ミールキットのパイオニア、米国ベンチャー企業を買収	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 160-161
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 (13) オイシックス・ラ・大地(下): 農産物宅配2社との経営統合の果実	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年9月号
2. 論文標題 (14) ローソンファーム千葉(上): 農業参入への新しいアプローチ(農業F C経営)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 160-161
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年10月号
2. 論文標題 (15) ローソンファーム千葉(下): 農産品の加工と未来への投資	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 (16) 吉見こども園: オーガニック学校給食の実践と普及の推進	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年12月号
2. 論文標題 (17) “フードエンターテインメント” という新しい業態の誕生(上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 160-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年2月号
2. 論文標題 特別寄稿: 米国西海岸、フードビジネス最新事業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年1月号
2. 論文標題 (18) フードエンターテインメント業態(下) : キャラクター・カフェのビジネスモデル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 112-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年2月号
2. 論文標題 (19) 日本最大の巨大温室群の今 : S A R A @ 笠岡干拓地	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔、青木恭子	4. 巻 17巻
2. 論文標題 持続可能な食料生産の地球環境への影響 動物性から植物性タンパク質への転換における諸課題 (ハリ・エイキング博士のアムステルダム自由大学でのインタビュー記録)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イノベーション・マネジメント	6. 最初と最後の頁 171-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 (20) 坂ノ途中(上) : 100年先も続く、農業を支えるプラットフォームになる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 56(3・4合併号)
2. 論文標題 美味しさを生み出す情報に関する研究枠組みの検討～ガストロフィジクスの視点から～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学 経済論集	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田 隆穂, 山中 寛子, 竹内 俊子	4. 巻 56(1・2合併号)
2. 論文標題 消費者の牧場体験が酪農家および乳製品への態度及び購買意図に与える影響の調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学習院大学経済論集	6. 最初と最後の頁 29-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水師裕、西尾チヅル	4. 巻 2019年
2. 論文標題 購買を通じた内集団協力的に間接相互性が与える影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本消費者行動研究会第58回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金城奈々恵、西尾チヅル	4. 巻 2019年
2. 論文標題 宿泊施設におけるおもてなしサービスの測定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 サービス学会第8回国内大会講演論文集『観光の未来とサービス学：新しい観光の時代へ』	6. 最初と最後の頁 364-369
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haga, N., Kobayashi, M., Michiki, N., Takao, T., Baba, F., Kobayashi, K., Ohyanagi, H., Ohgane, J., Yano, K., Yamane, K.	4. 巻 9巻
2. 論文標題 Complete chloroplast genome sequence and phylogenetic analysis of wasabi (<i>Eutrema japonicum</i>) and its relatives phylogenetic analysis of wasabi (<i>Eutrema japonicum</i>) and its relatives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根京子	4. 巻 115号
2. 論文標題 ワサビ食文化考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 vesta	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根京子	4. 巻 第57号
2. 論文標題 生ワサビの辛味および旨味の客観的評価方法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山葵連合会報	6. 最初と最後の頁 16-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根京子	4. 巻 31巻
2. 論文標題 ワサビ - その進化の謎に迫る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 いのち四季彩時	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2018年8月号
2. 論文標題 農と食のイノベーション(1):連載を始めるに当たって 農場から食卓まで、フードチェーンの未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2018年9月号
2. 論文標題 (2)農産物取引プラットフォーム企業:「プラネット・テーブル」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2018年10月号
2. 論文標題 (3)“植物の時代”の到来を見越して、事業ドメインを再定義する:不二製油グループ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2018年11月号
2. 論文標題 (4)データから見る日本の農業:その脅威と未来の機会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2018年12月号
2. 論文標題 (5) アジアンナンバーワンのパワーサラダ専門店を目指して: HIGH FIVE SALAD	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年1月号
2. 論文標題 (6) 金沢大地(上): 土地利用型の有機農業が成立する条件	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年2月号
2. 論文標題 (7) 金沢大地(下): 千年産業を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年3月号
2. 論文標題 (8) (株)フレンパシー: 食のバリアフリーを実現する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年4月号
2. 論文標題 (9) "植物食" は一般に普及するだろうか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川孔輔	4. 巻 2019年5月号
2. 論文標題 (10) 植物食産業の振興が食糧自給率を高める	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 食品商業	6. 最初と最後の頁 120-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata , Junko Kimura, Takaho Ueda and Tanja Barattin	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 Milk Processing System in Barbasia of Sardinia (Italy), Mediterranean Area	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂、竹内俊子、山中寛子	4. 巻 55巻4号
2. 論文標題 日系食品企業のセミ・グローバル化戦略～Web調査による仮説探索と江崎グリコ株式会社インタビューによる探索仮説の議論～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学習院大学経済論集	6. 最初と最後の頁 111-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田隆穂	4. 巻 2018年12月
2. 論文標題 地域産品のマーケティング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 電気のふるさと	6. 最初と最後の頁 14-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水師裕・西尾チヅル	4. 巻 11
2. 論文標題 消費者間協力としてのブランド情報発信に間接互恵性が与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 プロモーションナル・マーケティング研究	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮井弘之、西尾チヅル	4. 巻 21-3
2. 論文標題 おもてなし消費におけるゲスト側消費者の満足構造の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 流通研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5844/jsm.21.3_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外山昌樹、西尾チヅル	4. 巻 30-2
2. 論文標題 観光地ロイヤルティ形成における愛着とスイッチング・コストの影響：箱根を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Yamane and Taihachi Kawahara	4. 巻 65(3)
2. 論文標題 Size homoplasy and mutational behavior of chloroplast simple sequence repeats (cpSSRs) inferred from intra- and interspecific variations in four chloroplast regions of diploid and polyploid Triticum and Aegilops species	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Genetic Resources and Crop Evolution	6. 最初と最後の頁 727-743
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10722-017-0567-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根京子	4. 巻 93(11)
2. 論文標題 ワサビの持続的利用に向けたリソース上の問題点と活動事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業および園芸	6. 最初と最後の頁 783-792
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根京子, 小林恵子, 清水祐美	4. 巻 17(2)
2. 論文標題 日本の若者におけるワサビと辛味の嗜好性に関するアンケート調査結果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 園芸学研究	6. 最初と最後の頁 219-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2503/hrj.17.21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ken-Ichi Tanno, Ayaka Takeuchi, Eri Akahori, Keiko Kobayashi, Taihachi Kawahara and Kyoko Yamane	4. 巻 16巻
2. 論文標題 Multiplex PCR effectively identifies tetraploid Triticum AABB 8211 or AAGG-genome species	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Plant Genetic Resources	6. 最初と最後の頁 279-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1479262117000181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 澤浦彰治（株式会社野菜くらぶ / グリーンリーフ株式会社 代表取締役）、澤浦えくぼ（コーネル大学 / 留学中）、解説：小川孔輔
2. 発表標題 農業の次世代後継者
3. 学会等名 第9回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本朝子（コンサルタント）、長島成幸（吉見光の子学園理事長）、解説：小川孔輔
2. 発表標題 オーガニック学校給食を“本気で”考える
3. 学会等名 第10回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根京子（岐阜大学准教授）、解説：小川孔輔
2. 発表標題 絶滅危惧種のわさびを守る～日本でたった一人のわさび研究家・山根京子氏を迎えて
3. 学会等名 第9回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川孔輔
2. 発表標題 食を核にした、スモールテリトリー型地域ネットワークの構築（テーマ：子どもの未来を育てる食・給食と食育菜園・Grace Farm）
3. 学会等名 吉見光の子モンテッソーリ子どもの家（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川孔輔
2. 発表標題 地域企業のマーケティング手法と実践～地域企業のマーケティング手法と実践
3. 学会等名 とちぎ経営人財塾（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川孔輔
2. 発表標題 農業経営：アグリビジネスとマーケティング
3. 学会等名 アグリイノベーション大学校（株マイファーム）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上田 隆穂、竹内 俊子、山中 寛子
2. 発表標題 ニューラルネットワークによる最高利益を生み出す価格掛率のシミュレーション ～全体での固定価格ポイント1つの場合とグループ別のダイナミック・プライシングの場合の比較～
3. 学会等名 日本マーケティング学会 第7回マーケティングカンファレンス2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 講演者：福島徹氏（株式会社福島屋 代表取締役会長）、コーディネーター：小川孔輔
2. 発表標題 農業を起点とした新しいスタイルのビジネスモデル
3. 学会等名 第4回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 講演者：中野郁夫氏（株式会社ロック・フィールド 参与）、コーディネーター：小川孔輔
2. 発表標題 サラダ・カンパニー～ロック・フィールドのブランド戦略
3. 学会等名 第5回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 講師：小川孔輔、水野裕嗣（High-Five 代表取締役）
2. 発表標題 オーガニックを超えて、“植物食”の時代が始まる
3. 学会等名 第7回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 講演者：井村辰二郎（株式会社・金沢大地代表）、コーディネーター：小川孔輔
2. 発表標題 「“農”から地域を“元気”に：金沢大地がワイナリーとレストランを始める」
3. 学会等名 第8回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 講演者：播 太樹（株式会社フレンバシー 代表取締役）、コーディネーター：小川孔輔
2. 発表標題 食のバリアフリーを実現する
3. 学会等名 第9回ナチュラル&オーガニックビジネスセミナー（法政大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田隆穂
2. 発表標題 一次産業を念頭に置いた地域活性化の考え方
3. 学会等名 日本学術会議食料科学委員会畜産分科会・日本草地学会共催公開シンポジウム 放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る（広島大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田隆穂
2. 発表標題 （基調講演）日系食品企業のセミ・グローバリゼーション戦略～Web調査と企業インタビュー調査を基に～
3. 学会等名 日本商業学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水師裕、西尾チツル
2. 発表標題 ソーシャルメディア利用場面における間接互惠性の影響
3. 学会等名 日本消費者行動研究学会第57回消費者行動研究コンファレンス（同志社大学今出川キャンパス）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水師裕、西尾チツル
2. 発表標題 集団状況における購買行動に間接互惠性が与える影響
3. 学会等名 日本マーケティング・サイエンス学会第104回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽賀夏子, 小林正明, 道木菜那, 高野知之, 小林恵子, 矢野健太郎, 山根京子.
2. 発表標題 葉緑体全ゲノム比較による日本のワサビ属植物の系統解析および品種判別マーカーの作成
3. 学会等名 第26回育種学会中部地区談話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富田淳, 山根京子, 太田 敦士
2. 発表標題 コムギ近縁野生種 <i>Aegilops longissima</i> と <i>Ae. sharonensis</i> における穂の形態的二型のQTLマッピング
3. 学会等名 第26回育種学会中部地区談話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國島聡史, 山根京子.
2. 発表標題 滋賀県における野生ワサビの保全事例とその活用に関する研究
3. 学会等名 第26回育種学会中部地区談話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富田淳, 山根京子, 太田 敦士
2. 発表標題 コムギ近縁のエギロプス属シトプシス節で見られる穂の形態的二型の遺伝解析
3. 学会等名 日本育種学会第134回講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽賀夏子, 馬場富二夫, 久松奨, 高島茂雄, 山根京子
2. 発表標題 日本のワサビ属植物における葉緑体 DNA の種内変異と辛味成分前駆体グルコンノレート組成の多様性
3. 学会等名 日本育種学会第135回講演会(千葉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根京子, 加藤朋恵, 石田 佳織, 羽賀 夏子, 奥西勲, 小林恵子
2. 発表標題 野生および栽培ワサビの辛味成分含有量比較
3. 学会等名 日本育種学会第135回講演会(千葉大学)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 小野譲司, 小川孔輔(編著), 森川秀樹(著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 サービスエクセレンス: CSI診断による顧客経験(CX)の可視化: JCSI{(日本版顧客満足度指数)ガイドブック	5. 総ページ数 415
3. 書名 生産性出版	

1. 著者名 小川孔輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三咲書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 (インタビューで綴る)花産業の戦後史	

1. 著者名 山根京子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文一総合出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 わさびの日本史	

1. 著者名 上田 隆穂、澁谷 覚、西原 彰宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新世社	5. 総ページ数 296
3. 書名 グラフィック マーケティング	

1. 著者名 上田 隆穂	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明日香出版社	5. 総ページ数 304
3. 書名 利益を最大化する 価格決定戦略	

1. 著者名 小川 孔輔	4. 発行年 2022年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 348
3. 書名 青いりんごの物語	

1. 著者名 小川孔輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本実業出版社	5. 総ページ数 286
3. 書名 「値づけ」の思考法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山根 京子 (Yamane Kyoko) (00405359)	岐阜大学・応用生物科学部・准教授 (13701)	
研究分担者	上田 隆穂 (Ueda Takaho) (40176590)	学習院大学・経済学部・教授 (32606)	
研究分担者	西尾 チヅル (Nishio Chizuru) (80241769)	筑波大学・ビジネスサイエンス系・教授 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------